



蒼生会  
門脇 晃幸 議員

※ウェルビーイングと  
※スマートシュリンクについて

**質問** スマートシュリンクをどう捉えているか。

**答弁** スマートシュリンク（賢く最適化）は、少子高齢化の仙北市に合致する考えと捉えている。人口減少が進む本市においては現状を維持継続ではなく、限られた人材、財源を必要な分野に重点化し、地域の实情に即した機能と仕組みを再設計していくことが欠かせない。

**質問** 人口が減っても地域住民のウェルビーイングが向上する政策への転換をもっと進めるべきと考えるがどうか。

**答弁** 人口が減ること自体を悲観するのではなく、この町で生まれ暮らし続けることが幸せだと実感し、仙北市の魅力を外外に発信できる仕組みを整えることが市政運営の核心と考える。

**質問** 市民サービスを確保し、最小の経費で最大の効果を得られるよう、事業の優先順位付けによる取捨選択や抜本的な見直しを徹底

すべきと考えるがどうか。

**答弁** 公共施設については維持することを目的化せず、必要な機能確保したうえで統廃合、複合化、長寿命化、民間活力の活用などを組み合わせ、地域の实情に即した再編を進める。併せてDXを徹底し、業務改革と人員配置の最適化を進めることで、サービスの質を落とさずにスピードと利便性を高める。

こうした見直しは削ることだけが目的ではなく、守るべき機能は守り抜き、重点分野に資源を振り向けることで結果として、市民の安心と暮らしの質を高めることを目指す。



■スマートシュリンクによる施設の統廃合（上野庁舎）

用語解説

※ウェルビーイング：身体的、精神的、社会的に完全に満たされたとても良い状態  
※スマートシュリンク：人口減少を前提に、地域のインフラや公共サービスを賢く縮小・凝縮すること



新成せんぼく  
中村 和彦 議員

観光振興について

**質問** 新たな財源として、観光振興のために、宿泊税導入は必要であると思うが、今後どのように進めていくか伺う。

**答弁** 全国各地で導入の動きが加速している。これまで、関係事業者の皆様と意見交換を重ねることを重視してきたが、この間様々な意見等があり、今後は、第一に仙北市の目指す観光振興を明確に示すこと、第二に税の使途と効果を示すこと、第三に意見聴取を継続し制度設計を具体化すること、導入手順を踏みながら、関係者の納得感を最優先に必要な手順を踏みながら、新たな財源として検討していく。

**質問** 仮称お祭り会館について、今後どのような方向で進めていくのか伺う。



■曳山展示などでの誘客も期待されるお祭り会館

**答弁** 活用できる財源確保について本気で模索し、実現については、可能性を何とか検討していきたいと考えている。

高齢者福祉の充実について

**質問** 子育て世代等への助成は充実してきていると思うが、高齢者世帯等への助成が進んでいないように感じる。市民であれば等しく税の恩恵に預かるべきと思うが当局の考えを伺う。

**答弁** 支援が行き届いていないとの指摘については、謙虚に受け止め、要望については応えていきたい。

**質問** 課税世帯の高齢者から助成等が該当にならないと言われるが、せめて盆や正月には、買い物券等の助成を考えてはどうか伺う。

**答弁** 年齢とか要件を考慮し、支援が届くように今後しっかりと検討したい。

その他の質問

- ◆クマ対策について
- ◆桜まつりについて
- ◆当初予算について



公明党  
熊谷 一夫 議員

## 仙北市病院事業経営健全化計画について

- 質問** ①再編統合のスケジュール・医療ビジョン説明会はいつから行うのか。
- ②田沢湖病院は診療所として残るのか、医師・看護師は何名で診療科はどうなる。
- ③観光客、スポーツ大会等の時はどうする。
- ④令和8年10億円、9年5億円の病院事業債の発行は償還金返済に更に借金となるが返済財源は。
- ⑤再編統合後、収益増コスト削減から外来収益の増収とあるが、急速に人口減少する中、短期間で収支改善が進むのか。
- ⑥病院事業健全化における本気度について伺う。
- 答弁** (病院事業管理者) ①本年6月議会で示し、その後タウンミーティングを開催する。診療体制も丁寧の説明する。
- ②田沢湖病院を診療所へ移行したい。診療機能は診療科目を検討し、医師・看護師も必要な人員を配置する。

③救急医療は角館総合病院で対応し、観光やスポーツ等に支障はない。

④返済財源は病院事業経営改善における取組みによって生み出される為、一般会計からの繰入金等を前提としない。

⑤二つの病院の入院機能・医療人材の集約等で収益増に向けた体制整備を図り、接遇質の向上と均質化に努めていく。23億近い資金不足額の15億は借金債みたいなもので残り8億は毎年の赤字額である。資金ショートを起こした場合に共倒れとなる事を懸念している。

⑥病院の存続を第一に考え、改善が見込まれない場合は、給与費の抑制に踏み込まざるを得ない。



■診療所化される市立田沢湖病院

### 【その他の質問】

◆伝統的建造物群指定50周年をシテップロモーションのチャンスに！

◆八潮市の下水道事故を教訓として



荒木田俊一 議員

## 田沢・生保内地区の役割や位置づけについて

**質問** 仙北市における、田沢・生保内地区の役割や位置付けと今後の在り方はどうしていくのか。

**答弁** デジタル技術の活用等による農林業振興、既存の企業や工場等の経営支援による就業や生活基盤の確保、インターナショナルスクールの誘致による市有地の活用と教育移住や多文化共生等をして行くうえで重要なエリアである。

**質問** 学校、病院、体育館、市民会館は建設から年月が経っているが維持管理と今後の在り方は。

**答弁** 多くの施設が建設から30年以上経過しているが公共施設は地域住民の大切な財産であり、地域の発展を支える基盤である。市民生活に直結する施設の維持管理には万全を期す。

**質問** 田沢地区の活性化は農地の有効活用が大きい鍵を握っていると思う。そこで市が農業公社等を立ち上げ、農地中間管理機構の基盤整備をし、のちに法人を立ち上げ、地元農家や移住者等も組み合わせ

わせて活性化する方法は考えられないのか。

**答弁** そういった発想はなかったが、指摘をしっかりと受け止め住民の皆さんとも対応の機会を設けた。今後タウンミーティングということで、病院が中心になるが病院のみならず、今後、仙北市の姿勢について抽象的な話でなく具体的にどう向き合っていくのか、住民と意見交換の場を設けていきたい。

## 市民からの要望や請願の対応について

**質問** 秋木跡地の活用と、令和3年に採択された「総合体育館建設に関する請願」について対応はどうなっている。

**答弁** 体育館の建設場所の候補地と上がっていることは承知している。平成30年3月に建設基本計画書を策定しているが、現在の財政事情では早期実現は困難である。

### 【その他の質問】

◆「東風の湯」の長期休業について



新成せんぼく  
小田島 広仁 議員

仙北市民浴場「東風の湯」について

**質問** 市民から早期再開を望む声が大きく、今後の予定はどうか。民間も含め日帰り入浴を回数券対応できないか。回数券の払戻しはできないか。「東風の湯」は無くしてはならない場所である。市長はどのように考えているか。

**答弁** 湯量の減少と温度低下が原因で、水を加温し、源泉と混ぜて営業できないが見積り依頼しており、3月上旬に提出されるので検討していく。アルパこまくさが市直営施設なので回数券利用を検討していく。再開の目途がつかないのに回数券を払戻ししないことは間違いと考える。おもてなし仙北取締役会で検討していく。「東風の湯」の存在の大切さは十分承知しており、基本は存続させたいと思っている。

病院事業経営健全化計画等について

**質問** 田沢湖病院の入院病床を休止するとあるが廃止ではないの

か。外来の診療科目はどのようになり、医師、看護師等は何人になるのか。

**答弁** (病院事業管理者) 実質的には廃止し診療所化する方向である。外来診療科目は、これまでの田沢湖病院が担ってきた外来機能を基本的に考えているが、今後の人口構成等により議論しなければならぬので、計画はあるがこの場では申し上げられない。

**質問** 佐々木田沢湖病院名誉院長の退職の経緯について伺う。本件が引き金となり、退職を検討している方もいると聞いているが、医師の確保は大丈夫なのか。

**答弁** 先生との面談時に今後について前向きな話し合いができたものと認識している。引き続き地域医療へ貢献頂きたい思いに変わりはなく、市長として誠に残念である。医師の派遣要請を引き続き行い、必要な人材を確保していく。

【その他の質問】  
ふるさと納税について



蒼生会  
小林 幸悦 議員

小規模修繕等契約の上限額引き上げを

**質問** 一般的な入札参加資格を持たない小規模事業者も契約が可能となる小規模修繕等契約の上限が50万円であるが、昨今の物価高、人件費の高騰により、採算確保が厳しいとの声がある。上限額の引き上げはできないか。

**答弁** 現在、29名の方が登録している。上限額の引き上げは、本制度が本来入札資格を持たない事業者を対象としている性質上、施工金額が大きくなることによる工事の完成度や施工品質の確保、履行の確実性に対する懸念があることから、上限額は現行のままとした。

カーボンニュートラル宣言について

**質問** 国による2050年までに、二酸化炭素排出実質ゼロにするカーボンニュートラル宣言を受け、全国で宣言した自治体は急増している。秋田県でも12の自治体が宣言しているが、仙北市も宣言

してはどうか。

**答弁** 本市は、水力発電のメッカであり、バイオマスボイラーの導入、電気自動車の積極的な導入など脱炭素化に取り組んでいる。しかし、寒冷地のため、長期間の暖房需要や除排雪に伴うエネルギー消費が大きい地域特性があり、本市の実情に即したカーボンニュートラル宣言の可能性を前向きに検討したい。

二期目の市政運営について

**質問** 市長の二期目の方針には、山積する課題の解決が掲げられているが、あまり無理をせず一つずつ課題をクリアし、その達成感をモチベーションアップに繋げ、次の課題に立ち向かって欲しい。

**答弁** 第3次総合計画を羅針盤とし、優先順位を明確にし、階段を踏むごとく確実に成果に繋がせていきたい。

**質問** 今後の人口減少、インフラの老朽化、学校・病院の縮小などを受け入れたうえで、市長の10年後の明るい展望を伺う。

**答弁** 市民の命と暮らしを守り、人口規模が減少しても幸せに暮らせるまちを作りたい。